

## 前略、市史編さん室より

市史では、市内12校区の「校区史」を紹介します。今回取り上げるのは開聞校区。校区を代表して区長に集まっていただき、未来に残したい校区の自慢を伺うとやはり「開聞岳」との回答。思い出や歴史、知られざるエピソードを語り合っていました。

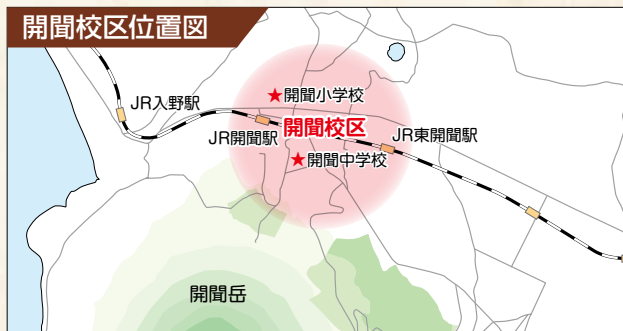
## ■校区の概要

市の南西部に位置する開聞校区は、薩摩富士と称される開聞岳の麓に広がる自然豊かな地域です。枚聞神社を中心に、十町・仙田・上野の3区で構成されています。昭和26年に頼娃町から十町と仙田が分村し「開聞村」が成立。昭和30年に利永村の一部上野地区を合併し、現在の形となりました。

各区に区長を設け、特色ある行事や事業を通じた地域づくりが行われています。

## ■人口（令和8年4月1日現在）3,087人

| 年齢      | 男      | 女      | 合計     |
|---------|--------|--------|--------|
| 0歳～14歳  | 118人   | 99人    | 217人   |
| 15歳～64歳 | 600人   | 637人   | 1,237人 |
| 65歳以上   | 730人   | 903人   | 1,633人 |
| 合計      | 1,448人 | 1,639人 | 3,087人 |



## ■学校・児童数（令和8年4月現在）

指宿市立開聞小学校 明治9年創立  
児童数 男60人 女50人 合計110人



## 未来に残したい校区の自慢

皆さんにとって、開聞岳はどのような存在ですか？

玄関を開けると目の前にそびえ立つ、まさに生活の一部ですね。山頂にかかる雲の様子で天気が予想できるんですよ。小学生の頃、麓は晴れているのに祖母から『雨が降るから傘を持っていきなさい』と言われ、本当に雨が降ったのを覚えています。

旅行から帰ってきた時、あの美しい姿が見えると『ああ、帰ってきたな』とホッとします。心の一部でもありますね。



見る角度によって美しさが変わる開聞岳。おすすめの場所の一つに上がった「花瀬海岸からの開聞岳」

歴史的なつながりも深いですね。

枚聞神社は、開聞岳そのものを御神体（開聞神）として創建されました。かつて噴火は神のたたりと恐れられ、それを鎮めるために祭られたのが始まりだそうです。

頂上近くには奥宮の『御嶽神社』があり、今も神事が行われています。麓の『岩屋どん』に伝わる神話など、開聞岳はたくさんの歴史や文化の源泉でもあるんです。

昭和63年7月には、天皇陛下も登頂されました。登山が趣味だった陛下は、朝6時45分に出発し、わずか1時間40分ほどで頂上へ。同行した青年団員もついていくのが精一杯でした。陛下は『独特の登山道の面白さや地質の変化を堪能できた』と感想を寄せられています。

**現在は「活火山」としての一面もあります。**

以前は休火山といわれていましたが、定義の見直しにより、現在は活火山に分類されています。平成12年には噴気が確認され騒ぎになりましたが、調査の結果、噴火の恐れは極めて低いとされました。

眺めて美しく、登って楽しい山ですが、その成り立ちを理解し、万一の備えも大切にしながら、これからも共に歩んでいきたいですね。